

## 茶道との出会い

聖光高等学校1年（山口県）

### 刁菊 優菜

私の得意なことって何だろう。

高校生になった。新しい制服、新しい校舎、新しい教科書、様々な環境の変化に心が追いついていないまま、もう4ヶ月が過ぎようとしている。新しい友達もたくさんできた。足が速いあの子、絵が上手なあの子、幼い頃から習い事を頑張っているあの子。みんなキラキラと輝いて見えた。運動も得意ではないし、絵も苦手な私は、憧れを抱いていたのかもしれない。

そんな私が所属している部活は「茶道部」。茶道部はお茶をつくるイメージが強く、「これなら私にもできるかな」と感じたので入部してみることにした。なにより、私は抹茶が大好きなので、好きなものを活かして活動できることが嬉しかった。

入部して3か月が経ち、今ではお茶を点てること以外に、お茶を入れたり、お菓子を食べたり、帛紗捌きや盆略点前などにも取り組んでいる。何気なく入った部活は、意外にも自分自身に合っており充実した時間を過ごせていた。新たな発見や気付きを見つける度に、新たな自分に出会えたような気がして嬉しかった。特に、初めて自分で点てたお茶を飲んだときは特別な感覚がした。今まで飲んだお茶の中で一番美味しく、改めて抹茶の旨味を味わうことができた。また、自分で点てたお茶で「誰かにおもてなししたい」と思った。

活動が続けていく中で、ふと、こんなことを感じた。「日本人なのに茶道を知らない」。

日本人の多くが好む抹茶だが、最近は外国人にも人気が高い。グローバル化が進む中、日本人である私たちが茶道の魅力を発信していくべきではないかと思った。しかし、私もそうであったように、そもそも茶道を知らない。もしかしたら、茶道を知らない人は私以外にもたくさんいるかもしれないと思った。今、部活で行っていることは将来大きく役立つかもしれないと思うと、さらに活動に熱が入るようになった。

茶道の魅力とは何か、まだ模索している中、自分自身の中で一つ確実に言えることがある。それは、礼儀作法を身につけられることだ。これは入部した当初から大切にしてきたことである。お客さまにおもてなしをする心を大切に思えば、自然と歩き方や姿勢、立ち振る舞いが良くなることに気づいた。また、物を大切に扱うことや、物の大事さを学ぶことができた。これらは、社会に出て他人と関わって生きていく中で、とても大切なことであり、必ず必要とされる作法であると思う。今後も「おもてなし精神」を忘れずにいたい。

ただ抹茶が好きだということから始めた茶道部は、こんなにも奥深いものであるということに感激を覚えた。得意なことも好きなこともなかなか見つけられなかった私にとって、自分を成長させることができる居場所を見つけたような感覚がした。

今後の目標は2つある。1つ目は、これからも礼儀作法を身につけていくことである。2つ目は、茶道の新たな魅力を発見し、周りに発信していくことである。茶道部に所属して3か月、これから知っていくこと、学んでいくことは無限にあると思っている。まだまだ未知の世界で

あり、これから足を踏み入れていくことが楽しみで仕方がない。そして、部活で得たものを自分の中だけで納めておくのではなく、家族から友達、社会に出てから関わっていく人々へと繋げて、日本の伝統文化である茶道の発展に少しでも貢献していけたらと思う。